



TITLE:

文化現象の地理的認識 - その一般的基礎について -

AUTHOR(S):

恒藤, 恭

CITATION:

恒藤, 恭. 文化現象の地理的認識 - その一般的基礎について -. 経済論叢
1927, 25(4): 131-151

ISSUE DATE:

1927-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128595>

RIGHT:

大正四年六月二十一日第三種郵便物認可（每月一回一日發行）
經濟論叢 第二十五卷 第四號

田島博士
還曆祝賀記念
論文集

京都帝國大學經濟學會

昭和二年十月一日發行

經濟論叢

第二十五卷第四號

(通卷第四百十八號。禁轉載)

文化現象の地理的認識

——その一般的基础について——

恒 藤 恭

一 文化科學と地理的認識方法

人類の社會生活は統一的全體を形成する傾向をもつ。文化的活動の發達につれて人類の社會生活は諸種の方角に分化して形成されるが、其れらの生活方角は常に社會生活の全體的形成の意味において展開されると同時に、各個の生活方角は其れ自身全體の構造を呈示する傾向をもつ。斯かる事情を表現するものは「文化領域」の概念であるが、この概念の有する論理的意義と事實的意義とを區別しなければならぬ。

人類の生活の各方向に沿うて人間の活動の過程及びその所産は、多様な文化現象として現れる。しかも其れらの現象は、同一の生活方向に沿うて成り立つ限り、同一の文化現象の本質の顯現としておなじ仕方で其意味を規定される故に、斯かる理論的見點から觀て、一の體系的秩序を

形成し、全體として特有の文化現象の存立範圍たる趣を呈する。之れ論理的意義における文化領域の概念の表明せむとする事柄である。文化領域は、斯く考へられた現實の生活實在について、吾々の有する經驗内容から抽出されたところの思想形象であり、それ自ら何等かの實在の世界の中に横たはるものではない。しかしながら文化領域が論理的意義において概念されるとき、現實の世界の中に事實的意義における文化領域がその背景を成しつゝ展開して居るのが觀取される。謂はば前者は後者の型を成す。人類が社會生活において諸々の生活方向を展開するとき、その諸發達階段を通して文化領域は現實の世界の地盤の上に打ち建てられる。これらの文化領域は一方においては論理的意義における文化領域の形態を反映しながら、他方においては後者とは異なる特有の形態において構成されざるを得ない。

文化現象は人類が互ひに交渉し、相協力する關係を通して成り立つ現象である。文化領域の形成も斯かる根本的制約に服する。私は他の機會において、『文化領域の概念は國家領域の概念との比論において構成されたものであると思ふ』と述べたが、國家領域は政治現象に關して成り立つ事實的文化領域であつて、國家領域の意味其者は文化領域の形成についての根本的制約と密接に關聯する所がある。而して國家領域の概念は事實的文化領域の旨趣を甚だ明瞭に表現するものであるが、ひとり政治的生活方向のみならず、他の諸種の生活方向も亦それ其れ文化領域を現實

1) 本論前號所載、拙稿「文化現象の凝集作用」p. 21.
2) 諸師の文化領域を綜合的に觀て、包括的な文化領域を分つやうな考へ方をはじめ、種々の文化領域の分ち方がうへられる。たとへば Sapper (Allgemeine Wirtschafts- und Verkehrsgographie, 1925, S. 102ff.) は世界を約十個の Kulturreiche にわかつ。

3) 後出 p. 142 參照。

の世界の裡に展開せしめる傾向を有する。例へば、宗教現象について云へば、佛教の支配する文化領域は東洋諸國の領土にわたつて廣大なる範圍にひろがり、その中の各宗派の領域は更に複雑なる仕方で形成されてゐる。また例へば、言語現象について云へば、アイヌ語は土地的には北海道の或る部分を以て、社會的にはアイヌ民族を以てその領域とする。素より國家は社會生活において強大なる勢力を有し、諸種の生活方向に對して深き影響を及ぼすものである以上、政治的文化領域の形態が諸種の文化領域の形態を條件づける程度は甚だ大きい。或る種の文化領域、例へば經濟的、法律的、教育的等の文化領域について殊にさうである。しかも此れらの文化領域と雖も必ずしも政治的文化領域と並行した關係において形成されるものではない。

個々の文化科學はその考察範圍に入り來る幾多の文化現象をば統一的全體に共屬するものとして取扱ふことを要し、従つて事實的意義における文化領域の構造及び形態を十分に吟味しなければならぬ。而して事實的意義における文化領域は時間及び空間の形式によつて制約された現實の世界の中に横たはるのであるから、文化領域の見點が文化科學的考察方法に對して有する意義もこれに應じて二つの方面から考慮され得る。空間の形式が文化現象を制約する關係を着眼の範圍の外に置き、時間の形式が文化現象を制約する關係に考察の主たる範圍を局限する認識方法にとつては、文化領域の發達過程及び歴史的斷面が問題となる。之に反して、文化現象が空間の形式

4) 茲にはゆる「文化地域」の考へ方は、人間の産業的勞作、特に農業的及林業的勞作の加へられた土地の部分を Kulturland とよぶやうな考へ方(たとへば Sapper, l. c. S. 178 f.)とは根本的にことなる。反之、Kjellén が Staat に關して Reich とよぶ所のものは茲に地域の概念を定立するのと大體において類似した見地から考へられてゐる。—— cf. Kjellén, Der Staat als Lebensform, 2. A. 1917. S. 46 ff.

によつて制約される關係に考察の焦點を求める認識方法にとつては、文化領域は文化現象の原材料の一種たる物質を包容する空間、即ち地球の表面と結合して現れる。斯かる關聯において考へられた文化領域を「文化地域」と呼ぶこととする。⁴⁾この地域の概念は文化地理的認識方法にとつても根本的な概念の一つである。

文化科學的認識方法として歴史的認識方法と地理的認識方法とは種々の興味ある對照を成す。但、これらの二者を十分なる意味において對立的地位に立たしめることが妥當であるか否かは別問題であり、恐らく二者が文化科學的認識にとつて有する重要性は一樣でない⁵⁾と考へられるであらう。言ひかへると、自然科學の場合を念頭に置くとき、文化科學にとつて歴史的認識方法は地理的認識方法に比して、より重大なる意義と職能をもつと認められるであらう。勿論、二者が互ひに相俟つて文化現象の認識の完成に資するものたる事は言ふ迄もない。

右に指摘した對照について先づ注目されるのは、諸種の文化領域にわたつて其れその文化現象に關する歴史學の成立が考へられるのに比較して、或る程度において同様の事態が地理的認識についても存する事實である。例へば、政治史、經濟史、交通史、言語史などの學問が政治、經濟、交通、言語等の文化現象について成り立つのに平行して、政治地理學、經濟地理學、交通地理學、言語地理學等の成立が考へ得られるし、⁶⁾且つ此れらの學問を建設せむとする努力が實際に

5) 地理的認識方法が文化現象の考察に對して有する重要性は、各種の文化領域の形成にとつて土地の有する重要性のことなるに従つて一樣でない。

6) Anthropogeographie, Historische Geographie, Kulturgeographie, la géographie humaine.

觀取されるのである。自然科學たる性質をもつ地理學の成立の可能性は現代においては比較的に問題とされぬ傾向があるけれど、人文地理學、歴史的地理學、文化地理學、人生地理學等の名稱を以て呼ばれる所のものについては趣を異にする。すなはち、斯く呼ばれる所のものは如何なる意味において學として成立し能ふか、自然科學と文化科學とのいづれに屬するか、⁷⁾或は又自然科學と文化科學との中間に位する特殊の科學たるものであるか、その目的、その對象、その方法は如何、政治地理學、經濟地理學、交通地理學、言語地理學などは果して各自獨立の學問たり能ふものであるか、且つ眞に地理學の名を値ひするものであるかと云ふやうな問題は、今日未だ十分に解決されて居ないやうに思はれる。又以上の如き問題と關聯して、地理的認識方法は一般に文化現象の認識にとつて如何なる意義を有するか、普通の文化科學の側からして企てられるところの地理的認識の色彩をもつ考察、例へば、Kjellén などの唱へる „Geopolitik“ の建設の主張⁸⁾か、A. Weber などの中心として „Standortlehre“ の見地から爲される研究¹⁰⁾との如きは、本來、政治學又は經濟學の範圍に屬するものであるか、然らずして政治地理學又は經濟地理學の範圍に屬するものであるかと云ふやうな問題も、文化現象の認識論なり、文化科學の方法論の見地から十分に検討されてゐないやうに思ふ。

すべて此れらの問題——文化現象の地理的認識の論理的意義の問題は、一方には文化科學的地

7) たとへば Wagner は、die historische Geographie im weiteren Sinne を以て eine naturwissenschaftliche Disziplin mit einem ihr inne wohnenden historischen Element であるとなす。(Lehrbuch der Geographie, I. B. 10. A. 1920, S. 26)

8) 一般に自然現象と文化現象との間の相互的交渉の認識がいかなる方法的性質をもつかの問題には、以下において觸れない。

理學の成立の基礎を明かにする上に、他方には文化實在の一般的構造及び文化科學の一般的性質及び職能を明かにする上に、その考察を等閑に付することを得ない。殊に其れは、文化科學における普遍的認識方法と個性化的認識方法との對立の問題と交渉する所が淺くない。¹³⁾素より私はこの稿において以上の如き問題の全部に亘つて周到に考察を試みむとするものではなく、唯これに關して大體の見當づけを試み、不十分ながらも理會し得たと考へる所を述べるに過ぎぬ。加ふるに、頁數の制限のために、私の考察した範圍についても、論理的順序から見て其初めに當る部分だけを以下にしるす事とし、別の機會に殘余の部分を發表したいと思ふ。

二 地理的認識の對象

歴史學と歴史的認識、統計學と統計的認識、心理學と心理的認識とが必ずしも同一物ではなく、二者を區別することが學問的に意義を有すると同様に、地理學と地理的認識、又は地理學的認識方法と地理的認識方法とを區別することを要する。言ひかへると、地理的認識の成立の可能なる範圍は地理學の成立の可能なる範圍に比してより、廣く、地理學的認識方法の行はれる範圍の外において地理的認識方法の可能であり有效である範圍が見出される。だが、地理的認識方法が地理學の内面において最も十分に適用され、地理的認識が地理學の場合に最も明瞭にその本領を

9) Kjellen, l. c. S. 46 ff.; cf. Haussleiter, R. Kjelléns empirische Staatslehre u. ihre Wurzeln in politischer Geographie u. Staatenkunde. (Arch. f. Sozialwiss. u. Sozialpol. 54 B. I. H.)
10) A. Weber, Ueber den Standort der Industrie, 1909; 本論叢第二十五卷第一號所載、黑正巖氏、工業分布論に關する文獻、參照。

發揮することは、之を否み得ない。

地理學が單なる地理的認識としてではなく、獨立の科學として存立し得る根據は如何といふ問題は、地理學に特有なる研究對象が存在するや否やの問題に歸着する。一般に或る科學が獨自の存立を有し能ふ爲には、それに固有なる研究對象の範圍がなければならぬ。何となれば、ある科學が獨自の存立をもつとは、その科學の建設する概念の體系においては其科學に特有なる認識方法が支配してゐることを意味するのであるが、斯かる各個の科學の獨占的支配の權利は、畢竟、その科學の考察する對象の範圍がその科學に對してのみ留保されて居る事柄を意味するものであるから。

今、經驗科學の場合について見るに、或る科學の研究對象とは、通常その科學によつて取扱はれる個々の現象を意味する。けれども、科學の研究對象は、十分なる意味においては、現象の一定集團もしくは一定範圍を指すものたる事を特記せねばならぬ。如何なる認識もその對象を全く他の對象との關聯から獨立せしめて其れだけとして認識することを得ぬ。あらゆる認識は必ずや他の若干の對象との關聯においてのみ其目的を達し得るといふことは、認識の根本的制約の一であるが、認識の精練されたもの、成熟せるものとしての科學は、斯かる認識一般の特性を殊に十分に發揮す可き任務をもつ。すなはち經驗科學的考察は必ずや現象の一定範圍に着眼し、之を全

- 11) 人文地理學といふ如き一個の科學が成立し能ふのみであり、政治地理學、經濟地理學、交通地理學等とよばれるものはその一部分にすぎぬか、きもなくば此等は政治學又は經濟學などに屬するといふ見解も成り立ち得る。12) 考察することに文化地理學又は人文地理學の任務を限らむと見る見解には賛同しえない。

體として認識することを念しなければならぬ。科學其者は、文化現象の一種として、論理的意義における文化領域の一分野を成すものであるが、事實的意義においても後者に照應する文化領域を展開す可きである。然るに、事實的意義における文化領域としての經驗科學は、その考察對象たる文化現象の一定範圍に自己の存立の事實的基礎をもたねばならぬ。各個の經驗科學の領域の境界はかやうな見地から區別されるものであり、その研究對象の獨自性もこれに應じて判別される次第である。

地理學は、その發達の歴史の初めに當り、人類の歴史的存在の土臺もしくは背景を成すものとしての土地に關する記述の形態をとつたが、近代に及んで、自然科學的色彩を帯びること著しきを致した。更に、十九世紀の後半から文化現象に關する地理學的研究も旺んに行はれるやうになつた。¹⁾斯くて、その發達の歴史から見ても、自然科學及び文化科學に對する地理學の所屬關係は複雑であり、紛はしきものたる觀を呈してゐる。²⁾即ち一方には、地球殊にその表面に關係ある自然科學の諸部門から地理學は如何にして區別されるかの問題を、他方には、土地と密接なる關係をもつ文化現象につき、恰も斯かる方面に着眼するところの文化科學的研究の間に、地理學は如何なる地位を占めるかの問題を惹起せざるを得ない。

3) 例へば歴史的方法も地理的方法も對象の個性の記述から出發するし、かつ對象の個性の直觀的規定に俟つ程度が大である。また歴史現象の繼起系列においても地理現象の並存系列においても不反復的、一回的因果關係が重大なる意義をもつ。

對象とする所の又は地球の内面の構造及び成分を靜態的又は動態的に考究する所の諸科學、例へば地球物理學、地球發生學、地質學、地史學などから區別される。けれども、地球の表面を形成する所のもの、すなはち岩石、金屬、土壤、水、空氣、植物、動物、人類、人工物等の現象は、物理學、化學をはじめ、礦物學、生物學、人類學などが各々研究對象として取扱ふ所である。而して其れらの地球表面の構成要素の各者がその種別に隨つて形成する現象の世界のいづれもは、其れそれ地理學以外の科學に固有なる研究對象の範圍となつてゐる。例へば、植物現象の世界は植物分類學、植物形態學、植物解剖學、植物生理學、發生的植物學等により、種々の見點から精細に考察される。斯くて、地理學が地球の表面に自己の研究對象を見出す可きであり、しかもその對象は他のいかなる科學によつても固有の研究對象とされて居ないものたる可きであるとするれば、その統一的、綜合的全體性において觀られた地球表面が地理學に留保された研究對象たる外はない。原始的實在について吾々が獲得する經驗内容から能ふ限り感覺的要素を斥出し、計量的要素によつて組成された法則的關係の世界を認識しやうとする物理學や化學やの態度とは異なつて、地理學は地球表面にあたへられる諸現象の形態を或る程度においてその直觀的具體性の儘に保有しなければならぬ。他方においては、地球表面を構成する諸要素をば統一的全體としての地球表面から抽出し、その各種別の見點に隨つて考察する所の他の諸科學、例へば岩石學、動物

- 1) H. Wagner. *ibid.* S. 17 ff.; Maull, *Politische Geographie*; 1925, S. 78 ff.; Schmidt, *Wirtschaftsforschung u. Geographie*, 1925, S. 146 ff. 商以學論叢第一卷第三號所載、小野鐵二氏「地理學方法論の一斷片」、p. 273 以下、黒田啓次氏譯、ギユンタア著、世界自然科學史、p. 359 以下。
- 2) Bernheim, *Lehrbuch der historischen Methode*, 1903, S. 287.

學、植物學、氣象學などとは違つて、地理學の任務は、地球表面を構成する諸要素をば斯かる關係に即して認識すること、すなはち其れらの諸要素により構成された儘の統一的全體としての地球表面を研究對象とすることに存す可きである。⁴⁾今、斯く觀られた地球表面を「地域」と呼ぶならば、地域の構造及び形態を明かにすることが、當に地理學の目的たる可く、地域こそは地理學にとつてその獨占的支配を承認される領域たるであらう。⁵⁾

かやうな見解をどる事により、地理現象が地理現象として他の種の現象から區別され能ふ所以たる本質及び特性が理會される。地域を構成する諸要素が地域と云ふ對象の形成素材としての役目を勤める關係から抽象して考察されるべき、其れらは最早地域の見點から觀られた現象、即ち地理現象として認識されることが出來ず、或は化學現象として、或は生物現象として研究對象となる。地理現象の認識される立場からしては、山嶽も平野も、海洋も河川も、植物も動物も、氣温も濕度も、生物の繁殖も人類の分布も、等しく地域の構成要素たる資格において同化され、それ等が原始的實在の成分として具有する所の諸性質及び諸關係は、地理現象としての意味において一樣なる規定を受けるのである。前に挙げたやうな諸科學、例へば、岩石學とか植物學とかにおいて、その對象たる個々の現象は現象領域の見點から取扱はれることを要し、個々の現象の様相に關する考察は現象領域の全體的様相の把握を常に念としなければならぬが、それらの場合

3) cf. Maull. *ibid.* S. 32ff.; Schmidt, *ibid.* S. 197

4) それ故「地域」の概念は例へば社會團體とか人口とかいふやうな概念と同じやうに集團概念に屬する。

5) この立言は從來自然科學的意義における地理學についてのみならず、文化科學的又は社會科學的意義における地理學についても妥當すると思ふ。

には、現象領域はそれ自ら空間的なる廣がり成すものではない。しかるに、地理學の支配する現象領域はそれ自ら空間的廣がり有するところの地域である點に、斯學の根本的特色が見られる。土地を以て其不可缺の要素となすことは、地域の本質に屬し、諸々の構成要素が空間的形式を基準として集團的全體にまで綜合される點に、地域の特性は存する。空間の見點が地理學について特に重大なる意義をもつのは其爲である。素より茲に謂はゆる地域は、單に地球がそれを包む空間と接觸する面の連續態、即ち幾何學的に考へられた所の物體の表面の一種を意味するものではなく、斯かる意味における地表の外に、其上にひろがる所の空氣を以て充された空間の一定範圍をも包含する。⁶⁾且つ地域は、經驗的、感覺的内容を交へない所の數學的なる空間の意味において思惟されるのではなく、地理現象と呼ばれ得る所の諸々の現象を以て充されたものとしての空間を意味するのである。⁷⁾かやうに一定の大きさの立體的廣がり有し、其れそれ一定の性質を具へた多様の現象を包容する所のものとしての地域は、その構成分子たり能ふ所の個々の現象に比して、高次の對象たるものと言ひ得られるであらう。但、地域とその構成分子たる諸現象との關係は、全體としての地域とその分枝を成すところの局限された地域との關係と混同されてはならぬ。けだし二者は高次の對象と低次の對象との關係たる點においては相類似してゐるけれど、前者は對象とその素材との關係として考へられるに反し、後者は全體の對象と分枝的對象との關

此點については人文地理學者、政治地理學者、經濟地理學者などの間に意見見解を一致とる者といふ居り、且つ、地理學の概念の論理的意義を考へてから、狭義の地域と廣義のそれとを分つて考へることが出来る。

係を意味するからである。

三 文化地域

文化現象について地理的認識が意義を有するのは、自然現象のみならず文化現象も亦地域の構成分子となり得るものであること、従つて地域は自然地域としても文化地域としても思惟され得ることに基く。

一般に、事實的意義における文化領域は、時間、空間及び人間との關係において、その様相を考察されることを要する。或る種の文化領域が如何なる人々の間に成り立つて居るかを問題とするのは、人的文化領域もしくは文化人域の見點であり、主として社會的文化人域もしくは文化社會域として方法的意義をもつ。これに對して地域の文化領域もしくは文化地域の見點からは、文化領域の成立の空間的範圍及び空間的形態が問題とされる。而して文化社會域又は文化地域と關係せしめて或る種の文化現象の存續の時間的様相を考察するものは、時間的文化領域もしくは文化時域の見點である。

人類が地球表面に生存し、人類の生活が地球表面に存在する物質を資料として營まれるものである以上、人類の活動によつて成り立つ文化現象の認識の上に文化地域の見點が重要な意義を

- 7) すなはち地域は例へば單に國家の統治權の排他的に行はれる空間的範圍としての Staatsgebiet とは趣を異にするものであり、むしろ Kjellén のいはゆる Reich と平行せるやうな意味をもつ(前出第一節註四參照)
- 8) Meinong などのいはゆる高次の對象をさす (cf. Meinong, Gesammelte Abhandlungen, II. B. 1913, S. 379ff.)

もつであらう事は、殆んど自明の事柄であるとして想定されるであらう。併しながら、地域の見點が自然現象の認識に對して有する方法的意義との對照において、地域の見點は文化現象の認識に對して何等か特殊の方法的意義を有するや否や、若し之を有するとすれば、其れは文化現象の地理的認識方法を如何様に制約するかと云ふ點は、別に考慮されることを要する。

地球表面に人類が生存を開始するに至つた時代がいかなる遼遠の過去に屬するかは兎も角、其以前の時代においては、地域が何等の文化的意義をも持つて居なかつた事は、言ふ迄もないであらう。既に人類が地球表面に現れた後の時代においても、人類が未だ文化的活動を爲す能力を所有して居なかつた時代については、同然である。斯かる時代と人類の文化的活動の觀取される時代との限界を時間的に規定することは極めて困難であるけれど、その點は茲では問題ではない。すでに人類の文化的活動の行はれるに至つた後の時代においては、或る範圍の地域が人類の文化的活動と直接間接の交渉をもつや否やに由つて、それが文化地域たる意義を有すると考へられ得るか否かも定まる筈である。³⁾けれども現在においては、諸種の文化的活動の發展、ことに交通的活動の發展のために、原則として地球表面の殆んどあらゆる部分は、文化的活動と直接間接の交渉をもたぬものは無い。故に、自然地域と文化地域との區別は、地球表面が文化的活動と交渉をもつや否やによつて爲されることを得ぬ。すなはち、文化地域は殆んど全地球表面に亘つて成立

- 1) 例へば文化科學的見地から人種の地方的分布を考察する場合などに、社會關係の見點を交へぬ所に單に人的な文化地域の見點が把持される。
- 2) この文化入域の概念は、人類の居住せる地域としての Oekumene の概念と意義を異にする (cf. Katzel, Anthropogeographie, II. Teil, 2, A. 1912, S. 3)
- 3) 或る程度以上に發達した文化を有する民族の住む地域を Kulturgebiet とよ

し、その空間的範圍において自然地域と一致すると云つても、過言ではない。しかも尙自然地域及び文化地域の概念を構成することが理由ありとされるのは、人類の生活の現實において地域の具有する文化的意味に即して地域を考察する方法が、斯かる意味を離れて地域を考察する方法とは本質的に異なる認識價值をそなへる所の成果をもたらずからに他ならぬ。

同一の原始的實在は、認識の方向の如何に隨つて、自然現象の構成素材ともなり、文化現象の其れともなり得る可能性をもつ。例へば、或る山嶽は成層火山の典型的なるものとしても認識され得るし、或る宗派の歴史上由緒ある靈場たるものとしても認識され得るであらう。更に例へば、耕地又は運河の如きは、文化現象として考察されるのでなければ、十分にその様相を理會され得ぬものゝ、それ自身としては自然現象としてもその様相を規定され得る。併しながら、地球表面の一定範圍内に見出される個々の現象を、何等かの種類の文化現象として規定すると云ふだけであつては、文化現象の地理的認識は成り立たぬ。その爲には、原始的實在としての地球表面が、統一的全體的形態において、文化地域といふ高次の對象の形成素材たる關係に持ち來され、その中に見出される個々の現象の文化的意味がすべて斯かる關係の成立を促すやうな仕方で一様なる規定を受けることを要する。

文化現象の地理的認識にとつては、原始的實在の複雑なる内容をば一定の文化的認識形式によ

4) ばやうな考へ方(例へば Sapper, l. c. S. 178)又は經濟的に利用され得べき地域の現實に開拓されてゐるものを Kulturfäche とよぶやうな考へ方(例へば Eckert, Grundriss der Handelsgeographie, 1905, S.62-68)の如きは、茲に文化地域を考へる仕方とは趣意を異にする。
地域の自然的形態がおのづから一定範圍の地方の經濟生活を統一的經濟社會

り或る種類の文化現象として概念することは、直接の任務ではない。斯かる認識作業がすでに他の通常の文化的認識によつて行はれ、原本的實在はその直接の様相のまゝに現れず、文化現象の形態において現れる處に、文化現象の地理的認識の作業が要求される。『人類の文化的活動が如何様に大地に根ざすかを明かにすること』が、この作業に課せられる任務の眼目である。而して、一定範圍の地球表面にあたへられる文化現象の集團が、その大地に根ざす仕方基準として、相互に統一的全體的關聯を合成する契機を有することの中に、文化地域の成立の基礎は發見されるのである。⁶⁴⁾

地域の文化的意味がいかなる文化現象の種別の見地から規定されるかに従つて、文化地域は政治的⁶⁵⁾、經濟的⁶⁶⁾、法律的、宗教的、藝術的、言語的、教育的等の文化地域に分たれる。⁶⁷⁾文化現象の中で特殊の性質をもつ(文化的)社會現象については、社會的文化地域又は社會地域が成り立つ。社會地域の定め方と、その他の文化地域の定め方とを併用すれば、社會的文化地域の見點があたへられる。更に、二個以上の文化現象を綜合的に考察する見地からしては、綜合的文化地域の認識も思惟され得るであらう。

或る種の文化地域に關係せしめて或る種の文化現象の考察をなす方法を一般に文化地理的認識方法と名づける時は、單に文化現象を文化地域に關係せしめて認識するといふのではなく、文化

の形成にまでみちびき、斯かる基礎の上に該地域の人民が統一的政治團體を形成し、永き歴史を通してかやうな經濟的・政治的關聯が維持されるといふやうな場合は、文化地域の內面的統一性の成熟せる狀態の代表的な例である。Ratzel が die politische Räume と呼ぶのは、茲にいはゆる政治的文化地域共者ではなく後者の主なる構成要素の一たる空間的廣がりに該當する。(cf.

地域其者を研究對象とし、その構造及び形態を明かにせむとする方法は、之を文化地理學的認識方法と謂ふ可きである。⁶⁾ 後者は考察の範圍に入り來る一切の文化現象を文化地域の構成要素として視、文化地域の様相を記述し説明する目的の爲に、個々の文化現象の様相を把握し利用するに反し、前者の立場においては、文化地域は文化現象の生成發展の地盤もしくは背景として考察の範圍に置かれるもの、考察の興味の焦點はこの地盤もしくは背景の上に存せぬ。

文化地域は、空間的位置、空間的廣がり、空間的形態、その構成要素の性狀及び分布狀態、文化的活動との相制關係等の諸様相につき、或は靜態的にもしくは動態的に、或は記述的にもしくは説明的に、或は普遍化的にもしくは個性化的に、或は一面的にもしくは全面的に認識される。すべて此これらの認識方向に關して、文化科學的意義における地理的認識は自然科學的意義における其れとは異なる特色を示すことが豫想されど共に、同一の原本的實在に着眼し、空間的構造において平行關係を有するところの複合的全體形象としての地域を研究對象とするものである以上、二者の限界が屢々事實上不明瞭であり、錯雜しがちであることも當然であるし、且つ又考察の便宜の上からして二種の認識方法を併用するところの研究が實際的效果を擧げる場合も多いわけである。

Ratzel, Politische Geographie 3. A. 1923, S. 249)

6) [cf. Schmidt, *ibid.* S. 197ff.

7) 各種の文化地域は更に幾様にも區分される。例へば經濟地域は金融地域工業地域、貿易地域、農業地域等にわかれるし、政治地域は行政地域、選舉地域、軍事地域、裁判地域、植民地域等にわかれる。

四 文化地理的認識の特性について

地球の表面、及び之に準ず可き所の地表に近い地殻の部分を利用することによつて、人類は地球の表面に生活をいとなむ。だから地球の占める空間の中で人間の實際的關心の及ぶ所は、原則として右の範圍に限られてゐる。

物體の表面は一般に物體が他の物體と交渉し合ふ作用の通路を成す。或る物體から他の物體に向ふ作用も、前者が後者から受ける作用も、ひとしく前者の表面を通過し、これによつて制約されざるを得ない。地球の表面についてもその趣を一にする。其れは日光及び空氣が地球と接觸する面であると共に、人生に有用なる種々の作用が地球の内部から人間の行動の場所に到達する面である。

客觀的に見れば、物體の表面なる概念の意義は、物體を組成する物質によつて充されてゐる所の空間と然らざる空間との限界の連續態を表明することに盡きる。けれども人間との關係においては、表面はそれ以上の意味をもつ。表面は内部又は裏面と對立する概念であり、内部又は表面が人間にとつて何等か接觸し難いもの、人間から遠ざけられ、隱蔽されたものを意味するに反し、表面は人間にとつて兎も角も接觸し易いもの、人間に向つて近接せるもの、露出せるものを

8) 十分なる意味においては文化地理學的認識は全體としての文化地域を考察對象とするものであらねばならぬが、文化地域の分枝としての部分的文化地域又は文化地域の構成要素としての個々の文化現象又はその集團をば斯かる資格において對象とする所の考察も(左迄十分ならざる意味において)ひとしく文化地理學的認識たるものと云ひに足る。

意味する。行動の立場においては、物體の表面は、人間が物體に對して力を加へ、作用を及ぼすに當り、その力又は作用を直接に被るところの部分、比較的に入間の支配に服し易く、人間の思ひの儘になる程度の比較的に大なる部分である。之に反して内部又は裏面は、表面を通して間接にしか人間の力又は作用の及びえないものであり、人間の意志に對して比較的に大なる抵抗を供し、人間の期待を裏切り易い性質をもつ。建築、土木、農耕、植林、貯藏、交通、採鑛等の實際的目的の爲に入間の利用し能ふ所の地球の構成部分は、地表を距たること幾ばくの深さにも及ばない。そして一切の人生の營みは斯かる地下利用能力の限度内において行はれて居る。斯くて、人間の實際的關心は主として地球の表面に向けられて居り、地球の内部に向けられることに例外に屬する。此事は一般に地球の表面に對する人間の認識的關心を左右するが、特にその關係を表現するものは、文化科學的意義における地理的認識の態度である。

認識主觀にとつては、物體の表面は視覺的もしくは觸覺的感官に對して印象をあたへるに適したもので、從つてそれの供する印象を通して思惟の規定に服するに適したものである。之に反して、物體の内部又は裏面は此れらの感官から縁遠いもの、從て思惟によつて其様相を把握され難いものたることを意味する。物體の表面と内部とが認識主觀との關係において有する所の斯かる特有の對照は、一般には物體の容積の大なるに比例して顯著にあらはれる。地球においてその適

- 9) 自然地域が文化地域又はその構成要素を制約する關係、後者が前者を制約する關係、同一空間の中に存する數種の文化地域が相互に制約する關係、ことなる空間にある同様の文化地域の互ひに制約する關係等

例を見る。地球の内部の構造及び成分の認識の困難の甚大なることは言ふ迄もない。この方面において自然科学的認識は多くの障礙を克服しなければならぬが、如何なる方面においても人類の實際的關心によつて根本的に制約される關係に立つ所の文化科學的認識は、この方面に關しても考察の範圍を地球の表面以下に及ぼすことを要求されない。それだけ地球の表面は文化科學的認識にとつては特殊の方法的意義を有する。

地理的認識の見地においては、ある地域の中の諸現象の示す形態は、その地域において地球の表面があらはす同一の形態の組成分肢として認識される。¹⁾ 地域は表面をもつ現象によつて形成されるのであり、表面をもたぬ現象はその形成にあづかり得ない。山、谷、平野、海、川、森林、岩石、生物、人工物等は、いづれも一定の表面を有することにより、相合して地域の形態を成立せしめる。地理的認識の關心は現象の表面に沿うて動き、無數の表面の集團によつて形成される全體的表面の様相を規定しやうとする。勿論地理的認識は地球の内部的性狀を顧慮せぬと云ふわけではない。地球の表面はその内部の盡きる限界たる以上、内部の具有する構造及び性質は何らかの程度において表面に反映されざるを得ない。その限りに於いて、即ち地球の内部の様相が表面的様相を制約する關係を通して、前者も亦地理的認識にとつて重要な考察の對象を成す。但、原本的實在が吾々の外的官能を通じて與へる感覺的內容が空間の形式に依り秩序づけられる

1) 但し、地域のもつ空間的意味と、地域の構成要素たる個々の現象のもつ空間的意味とは方法的に見てその本質をことにする。けだし地域概念は方法的範疇的意義をもつからである。

事に因つて成り立つところの地球表面の自然的形態は、其儘文化科學的認識の立場における地球表面の形態を成すものではない。地域をして文化地域たらしめる所以たる文化的意味は、吾々の直接に知覺する地球表面の内容を成すものではなく、文化現象の範疇の媒介により間接にのみ把握され能ふ。地域の構成要素としての文化現象の示す表面は、文化現象の基礎たる原本的實在の示す表面を基礎とせざるを得ないが、前者の形態は後者の形態とは異なる仕方で規定される。文化科學的意義における地球表面は、謂はば地球表面の自然的形態の上に文化的意味、色彩が塗抹されることによつて、吾々の意識との關係において地球の表面があらはす第二次的形態であると言説し得るであらう。或は文化地理的形態の成り立つのは、文化科學的意義における特有の空間であるとも考へられるであらう。

文化科學的意義における空間の中では、諸々の地理的形態が人間中心的認識にとつてのみ認識され得るやうな仕方で成立し變化するのであるが、しかもその成立及び變化の過程なり様相なりは、全く人間の意志又は要求のみによつて定まるものではなく、根本においては原本的實在の有する自然的形態の構造及び性質によつて制約される。だから、一方には人間の意識を支配する諸法則の見地、並びに人間の文化的活動を支配する諸法則の見地を考慮すると共に、他方には自然現象の間に現れる法則的關係の知識を應用することによつてのみ、文化地域の諸形態の成り立つ

2) 例へば Ratzel が „Jeder Staat ist ein Stück Menschheit und ein Stück Boden“ といふとき之を文字通りに解して Menschheit + Boden = Staat といふやうに考ふ可きではない。この命題の中には政治的見地から見て Boden をして文化地域たらしめる所以たる文化的意味の見地が含蓄されてゐる。(cf. Ratzel, Politische Geographie, 1923, S. 2f.)

過程及び様相は合理的に説明され能ふのである。但、文化地域における諸形態の様相が自然地域的條件によつて制約されると云つても、その關係は極めて複雑である。例へば、互ひに類似せる地理的環境は同じ種類の文化現象に對し一樣な仕方で影響すると云ふやうな命題は、一般的には地理的認識に對して課せられる方法的要請の一つたるに過ぎぬ。

考察さるべき文化現象の異なるに従つて、文化地理的認識の示す特性も一樣たるを得ないが、各個の種類の文化現象、殊に政治現象とか經濟現象とかについて、之に關する地理的認識の特性を考究することは、別の機會にゆづり度い。文化現象一般に關しても、地理的認識の方法的意義について尙多くの考察を要する問題の存することは言ふ迄もないが、茲にはそれに觸れることを試みぬ。(完)